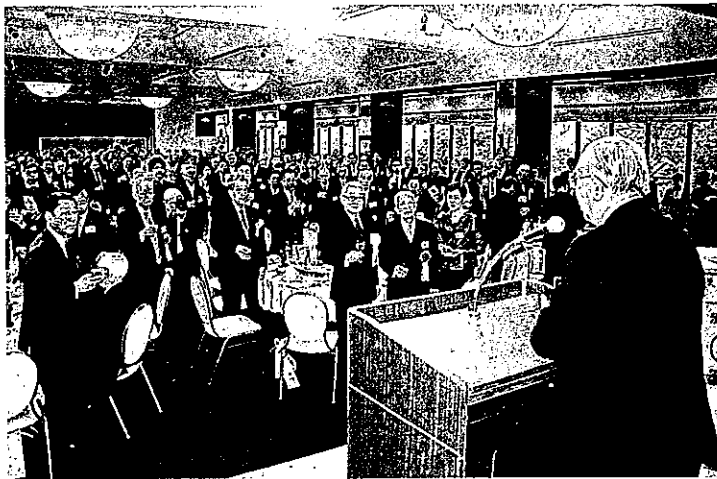


会津会創立100周年

同郷の絆強める

東京で記念式典、発展誓う



会津会の一層の発展を誓い、乾杯する出席者

会津出身者やゆかりの人たちでつくる会津会の創立百周年記念式典は二十五日、東京の上野精養軒で行われた。会員や関係者約三百三十人が集い、同郷の絆を守りながら先人の供養を続けてきた会の一世紀を祝った。

川島広守会長が戊辰戦争後の会津の苦難の歴史やその中で活躍した先人を紹介しながら「『愚直と忍耐』の文字を心に、先人の後を踏みしめ、楽しくたくましく生きていこう」と式辞を述べた。会津会幹事などを務め今月二十日に百七歳

照平会津若松市長が祝辞を述べ、名誉会員の松平恒忠氏が会津から皇族に嫁いだ秩父宮妃勢津子さまの思い出を語った。

森田嘉一京都会津会長の発声で乾杯し、祝賀会に入った。会津若松市の山田流箏曲演奏家・船木伊十矢さんが箏曲を演奏し、ポニージャックスが歌声を響かせた。会津民謡の披露や会津磐梯山の盆踊りもあり、出席者は会津を思いながら百年の絆を確かめ合った。

記念講演では麗澤大教授の松本健一氏が「近代日本をつくった会津の人々」と題して、教育界や宗教界を中心に、多くの足跡を残した会津の先人たちの振り返った。

会津会は明治四十五年四月二十日に発足した。会員は現在約七百五十人で、総会や懇親会のほか、会津の先人の供養と遺徳をしのぶ活動を続けている。

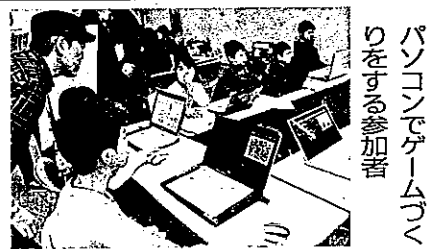
福島民報社が号外と特集配布
福島民報社は記念式典に合わせて号外を発行し、特集を掲載した本紙と一緒に会場へ出席者に配った。



福島民報の号外に見入る出席者

パソコン使いゲームづくり
郡山でイベント

ウェブを通して発信する力を付ける「Mozilla (モジラ) ワークショップin福島」Webの力で世界へ羽ばたこうは二十五日、郡山市のモルティとビッグアイで開かれた。「NPO法人福



パソコンでゲームづくりをする参加者

執行役員)は「皆さんの夢がかなうように全力で応援する」と呼び掛けた。

支援者とのランチ交流会も開かれ、生徒たちが心を込めて作った料理を味わいながら懇談した。もちつきや宮城大の学生によるすずめ踊りも行われた。

福島民報社からは渡部世一社長が出席した。

宮城

を支援す集い

東日本大震災で親を亡くした子どもの就学を支援する「みちのく未来基金」の第一期生



の集いは二十五日、宮城県大和町の宮城大和キャンパスで開かれた。支援者の励ましを受けた生徒が新生活への決意を新たに。未来基金はカゴメ、

重安積黎明高校長が激励の言葉を贈った。南相馬市小高区出身の杉校長は「私も津波で地元の高級生が犠牲になった。皆さんも大事な人を失ってしまった



でライスシーホワイトから県産米れた中畑監督(左から4人目)ら